

CONTENTS

自作自演197 上原徹也・柳澤佐和子・秋山 元・米田雅樹 2

第4回 フランスと日本の関係～対外文化政策のいま～
ベルタン・ポワレ文化スペース パリにある民間文化施設 松本茂章 4

ぎふメディアコスモス見学会・伊東豊雄氏講演会 西川光広・平石ゆりえ 6

第47回 中部建築賞 入賞・入選作品 8

第32回 JIA 東海支部設計競技「首相官邸」 金賞受賞者の声
..... 原 正彦・上奥璃奈・中村純子・三屋皓紀 10

愛知発 法人協会主催 CPD 研修見学会 酒井良和・伊藤彰彦 11

造形「形(角)を楽しむ」/建築家フェスティバル 2015 小坂井孝 12

登録建築家の再登録は2月15日までに！ 藤巻志伸 12

東海支部役員会報告 奥野美樹 13

保存情報 第171回 藤岡農業倉庫 三輪邦夫 14
寺部 林 廣伸 14

東海とおきガイド⑧ 静岡編 望月美幸 15

地域会だより 15

編集後記 福田一豊・鈴木道夫 16

東海の集落 11

愛知県新城市、川売（かおれ）の里。奥三河、蓬萊山北の山奥深い谷間の小さな集落である。谷間にたたずむ数十件の民家と石積み、そして二本に及ぶ梅の木々の風景。とても静かな集落だが、開花の季節には約二万人の観光客やアマチュアカメラマンが訪れ、静かな山里がにぎわうようだ。

その景色は現代の桃源郷とも呼ばれる。昭和三八年に数件の農家による和歌山県の梅栽培視察を機に梅栽培が始められ、その後次々と集落の多くの農家が梅を植え始めたそうだ。さらにその後のコマ余り対策での稲作転換として田に多くの梅が植えられたのである。深い谷間の集落は、霧深く日照時間が短い。



この環境が梅栽培に適しており、皮が薄い良質の梅をつくり出している。奥三河の桃源郷は農業経営の改革を集落一体となって取り組んだ賜物ともいえる。私がこの里を訪れたのは一月上旬。春の訪れにはまだ早い時期だが、今年は暖冬とあってちらほらと小さな梅の花が咲き始めていた。

生津康広
生津建築設計室アーキハウス





上原 徹也 (JIA 愛知)

ファンズマイル/上原設計 (名古屋市北区杉栄町5-112-3 TEL/FAX 052-720-2217)

写真の整理

昨年の11月に自宅兼事務所が竣工し引越しを行いました。引越し作業のときについつい時間をとられてしまったのが膨大な写真の整理です。この写真がすべてデジタルカメラによる撮影のものであれば簡単な話です。「日付時刻」で「並べ替え」をすれば一瞬で整理が済んでしまいます。何度も足を運んだ建築写真であろうとも、同じ面子の友人らとの日常写真であろうとも、プロパティから確認すれば何年・何月・何日・何時・何分・何秒まで教えてくれます。しかしながら私が学生時代に愛用していたのはAPSフィルムカメラでした。日付を表示させる機能はあったのですが、当時は現像した写真に日付がプリントされることに妙な違和感があり、この機能は使っておりませんでした。まさか今になって悔やまれる日がやって来るとは……。



友人から頂いた写真にはしっかりと日付時刻印されていました

さてさて、最近では現場写真でさえもデジタルカメラではなくスマホカメラを活用しています。「カメラロール」とは便利なもので、撮影日時のみならず場所や人物までも記録してくれます。しかし使い手側が相変わらず成長していませんね。写真に過度な情報が残ることに妙な違和感があり、場所などの記録保存機能は使っておりません。これもまたいつか悔やまれる日がやって来るのでしょうか？



柳澤 佐和子 (JIA 愛知)

建築計画連合 (名古屋市昭和区妙見町1-13 TEL 052-833-3496 FAX 052-833-3476)

癒しの空間づくり

私たち夫婦は同業の後期高齢者、精神病院やホスピスなど患者の心に安らぎを与える空間づくりに取り組んでいる。

愛知県で初めての愛知国際病院ホスピス病棟を設計した際には「死と建築」というテーマのもと、花や緑、身近な空間をどのように感じるかなど患者アンケートをしながら設計を進めた。

山梨の目下部(精神科)病院では、周囲の山々や笛吹川に面する環境を活かし、香りの並木の散策路や中庭など地域の風景から心癒される屋外空間を用意した。院内ではホスピタリティ溢れる木質材を使った暖かみあるデザインを心がけ、病棟ではコミュニケーションを重視、且つプライバシーの確保の観点から個室的多床室を採用し、ストレス社会の今日、開放的な雰囲気のある建築を試みた。

最近では入院治療から在宅療養へと地域の診療所や生活支援サービスなど包括ケアの概念での取り組みが始まった。住み慣れた地域で暮らしながら緩和ケアを受けられる支援施設としての愛知県がんセンター愛知病院地域緩和ケアセンターを木造平屋建てで中庭を増築した。患者さんの痛みやさまざまな問題を緩和するために、地域産のヒノキやスギをふんだんに使ったインテリアはハーブ演奏会でも音色が映え、優しい香りと共に患者や家族・スタッフの心を癒してくれている。

高齢者の医療費の膨らみと自己負担を考えたらどうしたら良いのか。95才まで車椅子生活で頑張った姑、認知症で徘徊した実母に接した経験から施設と在宅の老後環境をいかに近づけるか、段差だらけのわが家の改造に向けて、本の廃棄から始まった人生のしまい方の難しさなど現実は悩み多い日々である。



秋山 元 (JIA静岡)

秋山建築設計事務所 (熱海市上多賀170 TEL 0557-68-2927 FAX 0557-67-2921)

年始めに思う

私は母子家庭で育ちました。父は6歳のとき他界。貧しさがコンプレックスでした。すでに他界した母は和裁で三人の子供を育てました。早く私が社会人となることを密かに願っていたようです。そんな想いを感じながら、私は中学卒業後進学校へと進みます。美術系の国公立大を目指しますが自分のセンスの無さを確認しただけで終わりました。

そこから私の建築家としての始まりでした。それは全て親身になって助けていただいた人達のおかげだったと今も感謝しています。

昭和44年18歳のとき、人の紹介で伊東市内の小さな工務所に就職し、そこで建築設計の世界を知ります。翌年夜間大学(建築科)に合格し上京。修業しながら働けばと、いくつかの建築設計事務所の門を叩くも断られます。それでも建築家としての生き方を決定づける出会いが待っていました。それは西新橋の御成門に今でもある所員50人程の建築設計事務所でした。社長の大沼さんは、山形から上京して事務所を立ち上げた人物で、無愛想ですが本当に暖かい人でした。私はそこで拾われ、建築設計の基礎と大切な部分を学ばせていただきました。5年間の在籍でしたが、多くの先輩建築家から計り知れない事を教わり、溢れるほどの温情をいただきました。給料日前で手持ちが無いのに私からなければ5千円を借り、それで私に夕食を振る舞ってくれた先輩。熱海に帰って独立後15年も経つのに「君に良さそうな本を見つけたから」と贈ってくれる先輩。語り出したら限りない程の優しさに包まれて今建築家でいられると感じています。

私も65歳を超え、何の恩返しもできないままそんな先輩達数人は先立たれました。今自分ができる恩返しは「あいつは俺達が育てたのだ…」と言って貰えるような建築家であることと、自分にして貰った温情を代わりに今の若い建築家に少しでも持つ事だと考えています。

東京を離れて40年も会わないまま、今年も年賀状を贈っていただく当時の先輩達に感謝の想いを、年賀状の届くこの時期再認識しています。



米田 雅樹 (JIA三重)

ヨネダ設計舎 (松阪市西野々町28-2 TEL 0598-67-5948 FAX 0598-67-5441)

一冊の本、一枚の写真

昨年、JIA三重地域会の準会員として入会させていただきました。

私は、工業高校を卒業後、県内の工場や、営業の仕事、観光地にあるホテルの清掃業務など、職を転々としながら青春時代を過ごしました。結婚後は大手タイヤ製造企業で交代勤務の工具として働いていましたが、自分でモノを生み出す仕事にチャレンジしたい、と妻に無理を言い、会社を退職し、大阪の夜学建築科に通いました。私は25歳、長男1歳半でしたので、まさに若気の至りでした。妻の理解に感謝しています。

ご縁に恵まれ在学中、昼間は構造設計事務所にてアルバイトスタッフとして経験を積むことができました。

私には特に思い出に残る1冊の本と1枚の写真があります。1冊は建築を学ぶと決め、三重から大阪に引っ越す時期に、書店で手に入れた本です。“『あなたのまちの建築家たち』JIA三重編 三重の建築家24人”三重にはこのような先輩方がみえるのだ、とページをめくり、これから自分が目指す道程をあらためて決意しました。初めて購入した建築の本でした。夜間学校を卒業後、三重に帰ってきてからは、現場監督をしながら建築を学びました。JIA三重主催のレクチャーや、その他講習会などでこの本に載っていた方たちをお見かけし、とても気持ちが高揚したことを思い出します。

1枚の写真は、学校で配布された材料学の教科書に載っていたロンシャン礼拝堂です。それまで自分が一般人として持っていた建築の常識を大きく超えた造形に驚きました。いつか絶対に訪れたいと願い続け、独立した初年度、この建築に会いに行きました。自分が動けば、その場所はそこにある。そう信じる事ができた2つの経験です。

自分の視線の先、そのまた先へ歩いていけるよう、日々勉強していきたいと思います。



ベルタン・ポワレ文化スペース パリにある民間文化施設

松本茂章 | 公立大学法人 静岡文化芸術大学文化政策学部教授

同時多発テロの夜

パリ1区にある日本系文化施設「ベルタン・ポワレ文化スペース」の小劇場では、2015年11月13日(金曜)の夜、コンテンポラリーダンス公演が行われていた。終了直後の午後10時、観客の1人が受付に銃撃戦があったらしいと伝えた。職員が調べると、直線距離で2キロ先のバタ克蘭劇場(11区)で観客を人質にした立てこもり事件が発生中だった。運営する天理日仏文化協会の会長、津留田正昭(1959年生まれ)は公演に立ち会っており、即座に大きな声で指示を出した。「お客さまはすぐお帰りください。メトロはまだ動いています」「公演後のカクテルパーティーは中止です」。出演ダンサーの1人はまさにバタ克蘭劇場のすぐ隣に住んでいて帰宅できない。その後地下鉄が止まったため帰れない観客も2人出た。結局、協会の男性職員ら7人を加えて計10人が夜明けまで小劇場に居残った。家族や友人らの安

否が心配だったので、気持ちを落ち着かせるためにワインなどを飲みながら事件の沈静化を待った。外の大通りにはパリ警視庁のパトカー、救急車、機動隊を乗せたトラックなどがサイレンを鳴らしながら走り回っていた。地下鉄が動き始めた午前7時、全員が帰宅した。翌14日は全館を休館にした。

津留田の回想。「出演したダンサーの友人がバタ克蘭劇場で働いており、心配でたまらない様子だった。SNSで情報を取りながら一夜を明かした。全員無事で本当に幸いだった」

パリの日本系アートセンター

天理日仏文化協会(Association Culturelle Franco-Japonaise de TENRI)は仏国1901年法に基づく非営利組織(アソシアンオン)で、1971年に設立された。当初は14区に立地したが、手狭であることなどから2000年5月、セーヌ川右岸の現在地に移転した。語学センター(日本語と仏語)、文化活動(図書館の開放、茶道・華道教室など)、アート活動の3部門で構成される。17世紀の歴史的建物のうち、地上1-2階および地下1階を借りている。地上1階には語学教室11室と図書室。ロビーには机3脚といすが置かれ、語

学センターの生徒らが談笑できる。2階は館長室、執務室、料理教室など。地下1階には小劇場(86平方メートル)、美術ギャラリー(48平方メートル)、多目的スペース(30平方メートル)を備えている。このうち地下1階部分の芸術創造拠点を「エスパス・キュルチュレル・ベルタン・ポアレ(Espace Culturel Bertin Poirée)」と呼んでいる。「エスパス」とは仏語で「空間」「スペース」のこと。ベルタン・ポワレ文化スペースと訳していいだろう。同文化スペースでは演劇、美術、照明に1人ずつ担当者がいる。

1区といえばパリの真ん中である。東西に流れるセーヌ川の右岸沿い道路と著名なリヴォリ通りの間を結ぶ南北約300メートルの小さな通り「ベルタン・ポワレ通り」に面して建物がある。地の利に恵まれている。界限には地下鉄の路線計5本が集まっているうえ、パリ郊外と都心を結ぶRER(高速郊外鉄道)ともつながり、交通の便は抜群だ。徒歩5分程度で有名なシャトレ劇場やパリ市立劇場に至る。ポンピドゥー芸術文化センターとは徒歩10分くらいだ。小劇場もあって芸術家たちが集う地域なので、創造的な環境のなかにある。

ダンスの拠点

小劇場を切り盛りするのが静岡市出身のディレクター大谷知子(1958年生まれ)である。同志社女子大学大学院を修了して京都府立高校で家庭科講師として勤務しながら、京都労演の運動にかかわり運営委員などを務めた。改めて演劇を学びたい



天理日仏文化協会の外観(2014年9月13日撮影)(写真はすべて筆者撮影)



天理日仏文化協会地下の小劇場(2012年8月30日撮影)



図書室入口に新設された簡易エレベーター(2014年9月12日撮影)



茶道教室の様子(2014年9月12日撮影)

と決意して1992年に渡仏する。パリでは自主的に、日本の劇団やダンス集団のパリ公演をプロデュースしているうち、よく知られるようになった。いつも帽子姿だったので「大きな帽子のトモコさん」と親しまれた。在仏日本大使館・広報文化センターの運営を無償で手伝っていたところ、「移転先の場所が広いのでスペクタクル(舞台芸術)を行いたい」と切望して人材を探していた当時の天理日仏文化協会長に見出された。「一緒にやりませんか」と声がかかり、快諾した。

小劇場では年3度のフェスティバルを行う。3月はコンテンポラリーダンスを取り上げ、6月には舞踏ダンサーを集める。秋には演劇、ダンス、音楽など幅広い芸術を特集する。最も力を入れているのが6月の「ブトー・フェスティバル」だ。竹之内敦志、岩下徹、岩名雅紀、室伏鴻、桂勘、今貂子……らが出演してきた。エッフェル塔近くにある外務省系のパリ日本文化会館(15区)事業担当者らも同文化スペースの取り組みに関心と敬意を持ち、互いに招待状を送り、チラシを置き合っている。津留田のところには、在仏大使館などから、日程や場所の都合でどうしても受けられないものの、大切な文化事業なので何とかできないか、などの連絡や相談がときおり寄せられるという。官と民が互いに補完合っている。

新たな時代に向けて

それにしても、なぜ天理教がパリに進出

したのだろうか? 津留田によると、「パリが、当時教勢の広がっていたコンゴの教会への中継点であったこと、欧州における交通・文化の中心地だったこと」などが理由だったという。1970年に教団パリ事務所が開設され、翌71年に「日仏の相互理解を深める」ために同協会が誕生した。津留田は中京大学文学部2年生だった1980年、ラオスに布教していた名古屋大教会から派遣されてパリに留学した。その後長く日本語教師を務めてきた。一時の帰国を除いて30年余り、在仏生活を続けている。

協会によれば、協会設立時の費用は教団が負担し、建物も教団出資の不動産民事会社が購入した。津留田は「仏国は文化の国なので芸術支援などの社会貢献を行わないと評価されない。一方で、政教分離が厳しい国なので館内では一切布教活動を行っていない。信者かどうかは問わず、純粋に語学教育と芸術支援に徹してきた」と強調した。語学センターはパリで最大級の日本語教室である。これまでの活動の功績が認められ、同協会は設立40周年の2011年、日本政府から外務大臣表彰を受けた。

同文化スペースでは改装工事が2014年7月から10月にかけて行われた。地下へのエレベーターを新設し通路や非常階段の幅を広げた。図書室前の階段にも簡易エレベーターを設置した。行政当局の確認検査が翌15年2月にあり、同年3月に合格の連絡を受けた。会長の津留田は

「懸案が解決してほっとした。これで20年間は文化施設として使える。もっと活用していきたい」と決意の言葉を語った。改装のきっかけは2012年の県庁による定期視察だった。従来、地下に降りる方法が階段しかないなど設備面で十分ではないところがあった。同協会はこれまでの蓄えから総額33万ユーロの費用を投資して改装に踏み切った。おかげで懸案が解消できただけでなく、公共施設としてのカテゴリーが1段階上がった。劇場収容人数は従来の限度19人だったところ、新たに限度80人の劇場として認められた。館内全体では同時に300人の収容が可能となった。新たな時代が始まったのだ。

冒頭の同時多発テロのあと、非常事態宣言が出され、展覧会や講演会の一部でキャンセルが出たという。それでも津留田や大谷ら同協会職員は「改築で新たな法的な許可を得て、一層、日仏文化交流の懸け橋となれるように努めたい」と誓っている。

(敬称略)



まつもと・しげあき

早稲田大学教育学部卒、同志社大学大学院総合政策科学研究科博士課程(後期課程)修了。博士(政策科学)。読売新聞記者、支局長を経て2006年4月から県立高知女子大学教授(現、高知県立大学)。2011年4月から現職。日本アートマネジメント学会会長、日本文化政策学会理事、NPO法人世界劇場会議名古屋理事。単著に『芸術創造拠点と自治体文化政策 京都芸術センターの試み』(2006)、『官民協働の文化政策 人材・資金・場』(2011)、『日本の文化施設を歩く 官民協働のまちづくり』(2015)(いずれも水曜社)。

ぎふメディアコスモス見学会・ 伊東豊雄氏講演会

「みんなの森 ぎふメディアコスモス」見学会

2015年11月27日 「みんなの森 ぎふメディアコスモス」見学会がJIA東海支部、大光電気(株)主催で、先着80名、案内人の一人として庵原義隆氏(伊藤豊雄建築設計事務所)に担当していただき開催された。

「ぎふメディアコスモス」は、岐阜大学医学部跡地において岐阜市が事業展開している「つかさのまち夢プロジェクト」の第1期として、2012年にプロポーザル方式の競技設計が行われ、全国70名の応募の中から最優秀案に伊藤豊雄先生の案が決定。2015年7月に「知の拠点」「岐阜市立中央図書館」「絆の拠点」「市民活動交流センター」「文化の拠点」展示ギャラリーなどからなる複合施設「みんなの森 ぎふメディアコスモス」としてグランドオープンした。1階は閉架書庫を中心に展示ギャラリー・多目的ホールが並び、2階に開架閲覧を配し、波打つ木造の屋根が80

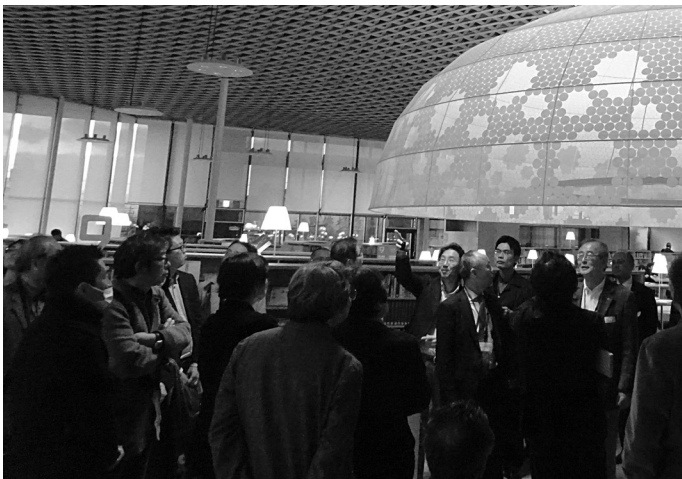
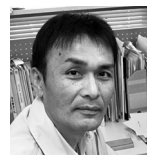
×90mの方形平面を覆う施設構成。

参加者の中には、このプロポにも応募された方々もお見えになり庵原氏に多数の質疑が出された。中でも興味深かったのは避難計画・防災計画についての取り組みだった。3000㎡の区画は、1階は閉架書庫と多目的ホールの区画によりクリア。2階は来館者および職員の避難誘導を考え、2階フロア全体をワンルーム空間とし、それを可能にするためにウォータースクリーン(特定防火設備)を配置。本が燃えたときの延焼を防ぐために、開架書庫の本棚の背板をプレキャストコンクリート造にて作成してあるとの説明。非常にわかりやすい導線計画が目に見え、2階に上がると目に飛び込むのが天井から吊られたポリエステルファブリックによる直径8~14mの半円形の「グローブ」。「児童のグローブ」、

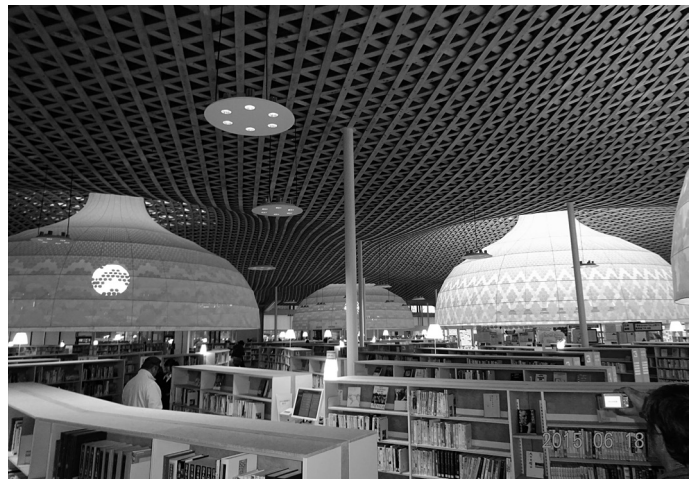
“親子のグローブ”、“ゆったりグローブ”など、11のエリアを優しく包み込み、グローブが逆向きのろうと形状をしていることによって、風の流れを生み出し、上部からの光を柔らかく拡散するなど室内環境を向上させ、冬にはグローブ内に暖められた空気を貯め込む。また、春・秋にはグローブによる換気能力を最大限に活かし自然換気のみで空調とするなど、快適で省エネルギーな空調計画に一役かっているなど、庵原義隆氏の設計者ならではの説明を受けた。

来館者の笑顔を見ていると、「ぎふメディアコスモス」が単に本を読むだけの図書館ではなくて、さまざまな市民活動が日常的に行われている施設であることを実感させていただいた見学会だった。

西川光広 | シーテック21



庵原氏から説明を受ける参加者たち



特長な半円形の「グローブ」

伊東豊雄氏講演会「台中国立歌劇院～10年間の軌跡」

2015年11月27日、ぎふメディアコスモスにて伊東豊雄氏のセミナーが開催された。内容は「台中国立歌劇院～10年間の軌跡」。伊東氏はこのオペラハウスを「奇跡」だと表現した。1時間の講演は、歌劇院のデザインがもともと2004年のベルギー、ゲント市のコンサートホールのコンペのものであった話から始まった。このコンペで伊東氏がこだわったのは内と外との関わりだった。ストリートコンサート。まちの喧噪のなかで音楽を聴く、そんな道端のコンサートホールをつくりたい。気密性が求められるコンサートホールにどのようにして外部空間を引き込むか。伊東氏は人の器官が内部と外部をつながながらも非常に精密に遮断していることに着目した。外部空間とつながる部分をチューブと表現し、人の器官になぞらえ、チューブの中のコンサートホールを提案した。このコンサートホールは、ゲント市ではなく台中の国立歌劇院として実現した。このチューブのコンサートホールをどうつくるのか。卵パックをヒントにした構造。図面で表し切れない断面。結局コンクリートでつくることとなり、トラスウォールのピースを組み合わせて施工した。建築はテクノロジーの発達とともに常に進んでいるのだと実感した。

講演後30分間の質疑時間。多くの質疑が出るなか、建築に対しての考えがどのように変化してきたのか質問がでた。1980年代、伊東氏の建築は軽やかで都市の中を自由に浮遊するイメージがあった。しかしそのイメージは何年か前から変化しているように私も感じていた。しかし伊東氏は昔から今まで建築に対する思考の転換というもの無く、常に建築と自然(外部)の関わりを考えてきたという。東京は高層化し、建築はどんどん精度よくつくられ均質化していく中、それは自然との関係を絶

ち人工環境をつくりあげる。でもそれでは人は元気にならないのではないかと伊東氏はいう。大都市VS過疎の村ではなく、村に残る日本の美しい風景、近代以前の住まい方、人間関係、それらを都市の中でもう一度組み立てることはできないのか。省エネルギーは自然とかわるることによって成り立つのではないか。新しい技術を使って昔の考え方を生かすことはできないのだろうか。自然との関わり、自然エネルギーの利用を新しい技術によって、ぎふメディアコスモスという公共建築で「少し」できたという。日本の古い住まい方、人間関係を取り戻すのに新しい技術をどう使えるのか、都会の生活に欠けているものを都市の建築にどのように反映することができるのかが当面のテーマであると伊東氏は話した。

伊東氏の話を受けてロバート・ソマー著の「現代建築の反逆～タイト・スペース」を思い出した。1982年、菊竹清訓氏が監修したその本には、建築を専門家の聖域とする人々によって利用制限(スペースのタイト化)は始まり、建築は冷たく非人間的なものとなることへの警鐘が記されているのだが、菊竹氏が共感したソマー氏の主張の中に「利用者の自由な選択行動を認めるべきだ」というものがあった。今回、伊東氏のセミナーの案内のチラシには、台中国立歌劇院と池に入って遊ぶ子どもたちの姿が写っていた。観賞用につくられた池だが、今では涼を求めて大人も子どもも池に入っているという。でもそれはそれでいいかな、と伊東氏は一笑した。

建築とは、自然とは、人とは、技術とは。相互の関わりあいの大切さをあらためて考えさせられるセミナーだった。

平石ゆりえ | FS & Ps



講演中の伊東氏



ストリートコンサートのスケッチ



台中国立歌劇院と池に入って遊ぶ子どもたち (伊藤氏セミナーの案内チラシ)

第47回 中部建築賞 入賞・入選作品

主催：中部建築賞審議会

応募数は一般部門で55点、住宅部門42点の計97点（昨年は96点）あった。9～10月にかけての第1回審査、現地審査、第2回審査を経て、一般部門では入賞6点、入選3点、住宅部門では入賞6点、入選5点が決定した。

審査員（順不同、敬称略）

新居千秋（建築家）

笠嶋淑恵（建築家）

川口亜稀子（建築家）

菅原洋一（三重大学大学院工学研究科教授）

陶器浩一（滋賀県立大学環境科学部教授）

秦正徳（富山大学学長補佐）

増澤信一郎（建築家）

柳澤究（名城大学理工学部准教授）

一般部門

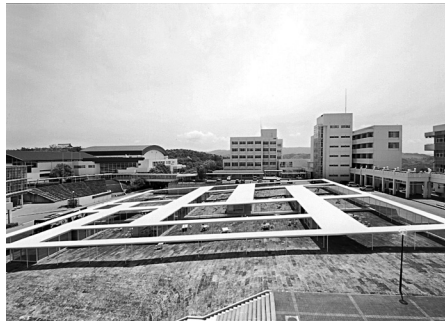
入賞

①所在地 ②建築主 ③設計者 ④施工者 ⑤構造・規模 ⑥延床面積 ※住宅部門は②は表記せず



正願寺

①愛知県豊川市 ②正願寺 ③株式会社 堀越 英嗣 ARCHITECTS
④株式会社 竹中工務店名古屋支店 ⑤木造（一部RC造）本堂 S造、地上1階 ⑥1,224.90㎡



愛知産業大学 言語・情報共育センター

①愛知県岡崎市 ②愛知産業大学 ③studio velocity
④株式会社 熊谷組名古屋支店 ⑤S造、地上1階 ⑥452.77㎡



名古屋市立第二斎場

①愛知県名古屋市 ②名古屋市 ③名古屋市住宅都市局営繕部営繕課、株式会社 山下設計中部支社 ④鴻池、徳倉、太啓特別JV ⑤RC造、一部SRC造、S造、地上2階 ⑥14,993.30㎡



ROKI Global Innovation Center-ROGIC-

①静岡県浜松市 ②株式会社 ROKI ③株式会社 小堀哲夫建築設計事務所
④大成建設株式会社 ⑤RC造、一部SRC造、地上4階 ⑥8,319.84㎡



上田市交流文化芸術センター・上田市立美術館（サントミュージゼ）

①長野県上田市 ②上田市 ③株式会社 柳澤孝彦 + TAK 建築研究所、株式会社 柳澤設計 ④鹿島・宮下特定建設工事JV ⑤RC造、SRC造、S造、地上5階、地下1階 ⑥17,635.19㎡



道の駅 FARMUS 木島平

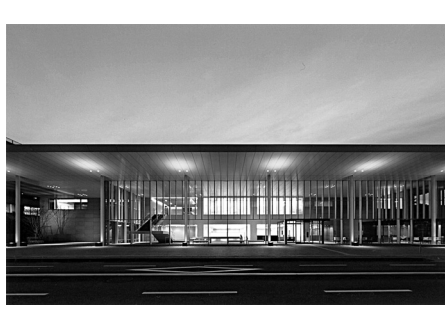
①長野県下高井郡 ②木島平村 ③スターパイロッツ
④株式会社 サンタキザワ、金澤工業株式会社、高津電気工事株式会社

入選



南山大学名古屋キャンパス S棟

①愛知県名古屋市 ②南山学園 ③清水建設株式会社 一級建築士事務所 ④清水建設株式会社 名古屋支店 ⑤RC造、一部SRC造、S造、地上7階、地下1階 ⑥18,872㎡



金沢商工会議所会館

①石川県金沢市 ②金沢商工会議所 ③株式会社 五井建設研究所
④豊蔵・兼六・橋特定建設工事JV ⑤地下SRC造、地上S造、地上3階、地下1階 ⑥6,117.64㎡



木津の庄コミュニティセンター+公園

①富山県高岡市 ②木津の庄 自治会
③富山大学芸術文化学部建築デザインコース ④松原建設株式会社
⑤木造、地上2階 ⑥235㎡

住宅部門 入賞



名古屋のコートハウス

①愛知県名古屋市 ③株式会社保坂猛建築都市設計事務所
④株式会社服部工務店 ⑤木造、地上1階 ⑥196.11㎡



羽根北の家

①愛知県岡崎市 ③佐々木 勝敏建築設計事務所
④丸平建設株式会社 ⑤木造、地上2階 ⑥149.07㎡



潜る地層・上がる地層

①愛知県大府市 ③倉橋友行建築設計室 ④箱屋
⑤木造、地上2階 ⑥131.79㎡



eaves house

①静岡県浜松市 ③株式会社エムエーススタイル建築計画
④株式会社荒川工務店 ⑤木造、地上2階 ⑥70.75㎡



Nesting in the Sky

①静岡県三島市 ③acaa ④大同工業株式会社 ⑤木造、地上2階
⑥105.26㎡



中土間の家

①石川県金沢市 ③竹内申一建築設計事務所 ④加賀建設株式会社
⑤木造、地上2階 ⑥204.19㎡

入選



緑園生活

①愛知県大府市 ③株式会社ワークキューブ ④株式会社土樹和
⑤木造、地上2階 ⑥107.91㎡



大野の家

①岐阜県揖斐郡 ③AIRHOUSE DESIGN OFFICE
④丸平建設株式会社 ⑤木造、地上2階 ⑥128.36㎡



Arakabe

①静岡県駿東郡 ③ツクリト建築設計事務所 ④株式会社富創
⑤木造在来工法、地上2階 ⑥175.67㎡



Nの住宅地の住宅

①静岡県浜松市 ③木村松本建築設計事務所
④K'sFACTORY ⑤木造一部S造、地上2階 ⑥116.44㎡



揚羽の家

①長野県北佐久郡 ③株式会社セルスペース ④第一建設株式会社
⑤木造、地上2階 ⑥114.48㎡

難民が流れ込んだ日本 という視点から

一般の部 金賞

原 正彦 | 東洋大学人間環境デザイン学科技術員

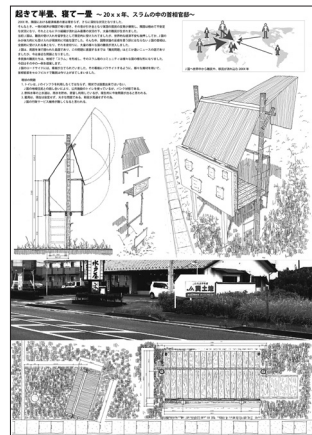


この度は歴史あるJIA東海支部設計競技において、名誉ある賞をいただいたことを感謝しております。昨年度から他の設計競技とは一線を画するような個性的な題目が続き、応募者に対し「建築とは社会的な行為である。君は、社会と向き合っているか?」と、問うような印象の下、課題と向き合いました。

2015年は近代社会の矛盾の発露が多々見られた年として一つの分岐点であり、その最たる例が「テロ」と「難民」の問題だと思います。私の提案では、日本に難民が流れ込みさまざまな要因の結果、郊外にスラムが形成され、そのリーダー的存在の家を「首領の家」ではなく、「首

相官邸」として提案しました。難民が入手可能な材料（配達のパレットなど）で、家をつくると考えてスタディを重ねた結果、原始の小屋のような掘っ立て柱形式の官邸ができ上がりました。また、人のつくりが近代を乗り越える願いも込めて、看板に覆いかぶさるように設計しました。

JIA東海の社会性を孕んだ特異なコンペが今後も続き、私の提案が一般の方々にも建築に興味を持つ端緒となれたら幸甚に存じます。最後にこの場をお借りして、お世話になりましたJIA東海の先生方に対し、心からお礼を申し上げます。



作品名「起きて半畳、寝て一畳〜20XX年、スラムの中の首相官邸」

「知りたい」という思い

学生の部 金賞

上奥璃奈 | 愛知淑徳大学3年



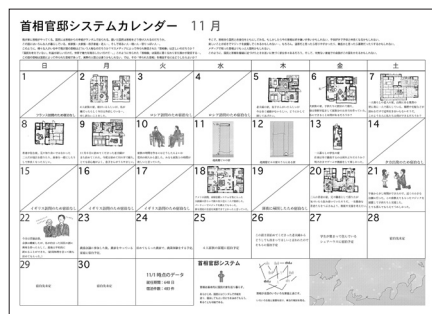
「首相官邸」を一戸の住宅としてとらえたとき、果たしてどんな住宅が描けるだろうか?という課題文を読んだとき、首相がどんな人間なのか知りたいと考えた。しかし、調べてもニュースや動静などばかりで首相がどんな人か分からない。首相官邸という場所が私たちにあってどんな場所なのか、首相官邸で何が決まっているのか分からないことばかりだった。さらにネットでは極端に偏った首相の人物像を書く記事があり、「首相だって人間なのに…」という気持ちが生まれた。そのうちに「どうしてわからないのか?」という問いに変わり、そして最後に「首相が遠い存在、身近に感じられないからなのでは?」とい

う考えに至った。

そして出来上がったのが今回の提案である。首相を私たちが暮らす家に招き宿泊する。衣食住を共にしたとき、首相はどんな人間だろうか? そして首相はありのままの暮らしを見て何を考えるのだろうか? そしてこの国はどう変わるだろうか?

ゲスト審査員の西沢大良先生をはじめ審査員の皆様に議論や評価をいただいたこと、コンペを開催していただいたJIA東海支部の皆さま、支えてくれた大学の先生方、友人にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

作品名「首相官邸システム」



官邸の本質

学生の部 金賞

中村純子・三屋皓紀 | 大阪大学4年



●官邸とまちのつながり方

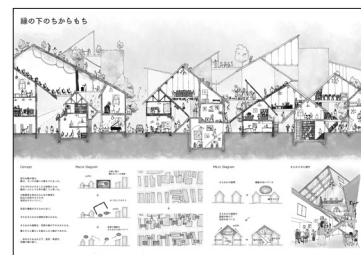
首相官邸は何のためにあるのだろうか。この存在と向き合う上で最初からずっと考えていたのはこれだった。官邸は国の将来について語る会議の場の集まりであり、ある意味「究極のprivate」空間だ。かつ、国民全員のためにあり民意を反映する「最もpublic」な存在である。この相反する性格を持つ空間はまちとつながるべきだと考えた。

官邸内の各機能の空間がまち中に散らばり、その空間をまちなかの建物が形づくり、まちの通りが廊下になったら、人々のprivateな生活空間と官邸のprivate空間をそれぞれのpublicな空間を混ぜてつ

なげることで、各private空間をまち全体で極限まで近づけることができる。人々の生活の中で国の将来のための会議が行われ、会議と会議の合間の時間は首相や大臣とまちなかの人々の交流の時間になり、国民は政治を身近に感じ関心を持っていくだろう。これが私たちの「官邸の本質」を追求した空間的解」だった。

●案のひろがり

この審査会で、本当に面白い案は、国などの選択肢の多さではなく案自体のひろがりなのだと感じた。建築は「いつまでも成長しひろがる洗練」が求められるのではないかと。金賞だけでなく建築に対する価値観や知恵を得る機会をいただいたことに本当に感謝しています。



作品名「緑の下のちからもち」

タイルとレンガとテラコッタの日

12月2日、JIA愛知地域会・賛助会企画の研修見学会を開催しました。本見学会は、JIA会員の皆さまへの認知活動の一環として、また、見学会を通じて今後のお仕事に役立てていただくことを目的として企画いたしました。今後も出張見学の研修を開催しますので、ご支援・ご協力をいただきますようお願いいたします。＜参加者数＞会員6名 法人協力会員6名 合計12名

①株式会社 LIXIL 協力工場 (日本モザイク)工場見学

日本モザイクは(株)LIXILのグループ企業として、焼き物のまち常滑を生産拠点にセラミックタイルを全国に供給、展開している工場です。主な生産品目は、外装モザイクタイルです。多治見地区の工場ではタイル製造にあたり『原料・釉薬・生地など』分業化が進んでいる中、日本モザイクでは『原料～釉薬調合～製造』まで一貫製造をすることで高品質のセラミックタイルを製造しております。今回、『原料調合～釉薬調整～プレス成型～焼成～梱包』一貫製造ラインを見学していただき、セラミックタイルは工業製品でありながら焼き物特有の自然な味わいを持ち、人々の感性に高い訴求力をもつ卓越した素材であると感じていただいたと思います。

●参加者感想

釉薬の調合やタイルの色差解消のシェア、天日下での目視確認などデリケートなヒューマンレベルでの商品管理を知りました。最近自社新製品も次年には中国から模倣ローコスト品が発売されてしまうそうです。



光るどろだんごに挑戦

②INAXライブミュージアム見学

当ミュージアムは2006年、「窯のある広場・資料館」「世界のタイル博物館」「陶楽工房」の既存の文化施設に「土・どろんこ館」「ものづくり工房」が加わり、焼き物のまち「常滑」にグランドオープンしました。さらに2012年、「建築陶器のはじまり館」を新設し、この6つの館を散策しながら、土と焼き物が織りなす多様な世界を体感していただきました。土・どろんこ館では「光るどろだんごづくり」にも挑戦していただきました。窯のある広場では土管を焼いていた大正時代の窯と建物、煙突を保存し内部を公開、日本の近代化に欠かせない土管の役割や、製造に用いた貴重な道具・機械類を展示しております。また、日本のトイレ文化の華、青と白で美しく装飾された染付古便器も展示しております。

●参加者感想

最も印象に残ったのは明治以降の和便器コレクションです。繊細に染付された大小便器の絵柄とシルエットは絵皿や食器と同レベルの美を感じる物でした。こんな便器があったらトイレのインテリアのレベルは劇的にUPするだろうと先人に気づかせてもらいました。



窯のある広場

③とこなめ陶の森陶芸研究所見学 (DOCOMOMO Japan 近代建築 184選)

陶芸研究所は、故堀口捨巳氏の設計で昭和36年に本館やアトリエなどが建設されました。淡い紫色の外壁には、常滑焼の窯から流れてくる煤を洗い流せる当時最先端技術だったカラコンモザイクが貼られています。中でも、堀口氏は「陶芸作品の展示室には、自然光線が一日中、平均して入るように考慮し」ており、屋上の四方にモールガラスを張った三角屋根が突出し、そこから入る光が屋根裏に反射して室内に送られる設計がなされています。ガラス部分だけでなく、屋根全体が明り取りとなっています。一般開放されていない屋上まで見学することができ、モダニズム建築としての特徴や堀口捨巳の設計思想について理解を深めるとともに、地域に根付いた建築と施設など、現代の建築に求められている課題をそれぞれの見地から見ることができました。

●参加者感想

管理者の市が新築時のオリジナルにこだわった維持管理をしています。屋根の防水補修の必要性など気になる傷みはありますが、この建物の良さを評価し、維持する姿勢の尊さを感じました。有意義な機会でしたがJIA会員の出席者は6名で少なかったことが残念でした。



酒井良和 (本文) |
(株)LIXIL 中部支社



伊藤彰彦 (参加者感想) |
パバカンパニー

造形「形(角)を楽しむ」／建築家フェスティバル 2015

第15回長者町あびす祭りに参加する「建築家フェスティバル 2015」が、11月14、15日に開催された。段ボールによるワークショップでの造形体験、防災の知識を広める災害時用段ボール家具の紹介など、遊びと学びの場所を提供し、JIAの活動の広報も目的とした「建築家フェスティバル」は今回で3年目。多くの来場者でにぎわい、家族連れで来られている人の中には昨年のリピーターも見受けられ、造形体験も地域に広まりつつあることを実感した。

今回は、「段ボールカード」と「段ボールメダル」の体験をメインに実施。昨年のカードに改良を加え、四角い形状のカードから三角・六角のコネクターを追加したことで、さらなる造形の展開を期待した。つくり方を見ていると、子どもたちは四角を多く使用するのに対し、女性(親)は、四角より三角・六角のカードを使って組み

立てる。ありふれた四角より、何か違った変化を求めるのか、三角・六角を使って柔らかさのある斜めラインをつくり出している。

段ボールメダルを製作する子どもには、六角形のカードが人気。形状に合わせて、角のスペースに絵を描いたり、塗ったりする。カードにある角の数だけ、たくさんの考えを思い巡らしている。長い時間、横で待っている親をほっといて一心不乱な様子や、完成したメダルを記念に持ち帰って行く子どもの笑顔も印象的だった。

段ボールカード、段ボールメダルの「創造・創作」の造形体験は、形の捉え方が人それぞれあって面白い。ここでは、みんなが『考える』ことを楽しんでいる。イベントの終わりに片付けに入ると、小さな子ども達がつくる手を止めて手伝ってくれる。それも、早く片付けすることを子どもたち自ら競い合い、形(角)をそろえるこ



ダンボールカードの構造物が高層ビル群のように立ち並ぶ



ダンボールメダルに一心不乱に色を塗る子どもたち

とを楽しんでいるように。最後は、こちらスタッフがほっこりさせられたひとときだった。感謝。



小坂井 孝 | 野口建築事務所

登録建築家の再登録は2月15日までに！

昨年からの登録建築家の話題がチラホラ皆さんの耳にも届いていると思います。自分にはあまり関係のない話のように感じている会員も多いように思いますが、そもそもこの制度は「誰のための、何のための制度なのか」ということを会員一人一人がもう一度考えてみて欲しいと思います。

建築家資格制度制定の背景には戦前からの長い歴史があります。昭和25年に建築士法が制定されましたが、建築士法は単なる技術者の資格法であり、JIAの前身である日本建築士会(現在の日本建築士会連合会とは異なります)が制定を目的としてきた職能法とは異なる不十分なものとなってしまっています。国際基準にあった建築家職能の法制化は現在のJIAの基盤をつくった先人たちの悲願であったのです。そして現在のJIA会員であるわれわれは建築家資格制度が将来の国家資格制度を見据えた運動であることを理解し、自らが登録建築家となり、また多くの登録建築家を生み、育て、この制度が社会に認知され定着していくように努めなければなりません。

登録建築家の認定審査が年に一度であるため、この原稿が皆さ

んの目に触れるころには新規登録の受付が終わっていると思われれます。今年のチャンスを逸した会員は来年こそ登録をしてください。そして過去に登録建築家の認定を受けたが、更新をしなかった会員は2月15日までに再登録をしてください。また今年更新時期を迎える皆さんは必ず更新を忘れずに行ってください。

■ 3年間で36単位のCPD単位を取りましょう

JIA正会員及び登録建築家は、それぞれがそれぞれの規定、規則によってどちらも3年間で36単位を取得するように定められています。特に登録建築家の更新にあっては単位の取得が必要条件となっていますので、間際になって慌てることのないように日頃から認定プログラムに関心に向け、積極的に単位を取得するようにして下さい。

※更新時の必要単位数は更新年度などによって異なりますのでご注意ください。



藤巻志伸 | 愛知 職能・資格制度委員長

東海支部役員会報告

持ち出し役員会の今回は、伊東豊雄氏の設計による“ぎふメディアコスモス”で行われました。講演も拝聴でき、年齢を感じさせない氏の作品や取り組みに建築家の気概を感じました。支部は来年度への体制を組み始めています。故を大切にしながら新しきを取り入れる骨太で進取のある会になるように、皆さまのご協力をお願いします。



奥野美樹 | 奥野建築事務所

日時：2015年11月27日（金）13：30～15：30
場所：みんなの森 ぎふメディアコスモス「おどるスタジオ」
出席者：支部長、理事2名、幹事11名、監査2名、オブザーバー10名

1. 支部長挨拶

岐阜地域会の皆さま、本日の持出役員会の設営ありがとうございます。長丁場となりますが、よろしくをお願いします。（石田）

2. 報告事項

- ①第7回東海支部CPD評議会（10/30）（塚本）
 - ・プロバイダー申請2件、プログラム申請：21件中11件認定、10件修正
 - ・10/22愛知地域会協力会にCPDに関する講習会を行った。
 - ・支部資格制度委員会よりWEB・DVD研修につき内容の問合せあり。NPO法人建築家教育推進機構に資料の提出を要請中
- ②JIA東海支部大会2015実行委員会（11/13）（谷村）
 - ・登録者数162名（未確定）
 - ・愛知地域会の負担金（60万）については、収支の結果により減額した金額の会計報告とする。
- ③第32回JIA東海支部設計競技（11/14）（矢田）
 - ・2次審査、表彰式等をTOTOマルチスペースにて開催。参加人数73名
- ④東海支部選挙管理委員会（11/20）（久保田）：立候補者全員が当選：監査 鳥居久保、服部 滋
- ⑤退会届：鈴木達也（辰巳設計）

3. その他

- アーキテクトの配布先について（牧）
- ・配布先の確認が必要。配布先選定になんらかのルールが必要かもしれない。
 - ・まず、配布先のリストアップをお願いします。（石田）

〈議事〉

1. 審議事項

- ①入会申込：法人協力会員（株）ピアレックス・テクノロジーズ 承認、個人協力会員 南部雅春 承認
- ②後援名義使用許可：（公財）可見市文化芸術振興団「世界劇場会議国際フォーラム2016in 可見」承認
- ③広告協賛依頼：（株）日刊建設通信新聞 「新春企画特集号 中部の明るい未来に向けて」承認
- ④第23回JIA東海学生卒業コンクール2015（11/24）（吉川）
 - ・1次審査を公開審査にする。最終審査日程未定。
 - ・審査会を各地域会持ち回りにすることを検討していきたい。
 - ・2016年度事業計画書 承認

2. 協議事項 なし

3. その他

- ①JIA事業活動助成申請「建築ラリー2016」（中西）
 - ・建築家とまちを歩こう+建築文化講演会+建築文化シンポジウムの3事業を集約的に行う。
- ②フレッシュマンセミナー参加者について（久保田）
 - ・愛知地域会 塩田有紀氏
- ③フェロー会員推薦について（鳥居）
 - ・芦原会長の意向：フェロー会員は頑張っている現役世代が受けるもの、現役世代の励みになるもの
 - ・寄付は後進を育てるために使う。寄付は全額控除予定。
 - ・東海支部には12名の枠があるが盛り上がっていない。12/21（月）までに推薦をすること。
- ④建築トラブル 弁護士紹介について（久保田）
 - ・相談できる弁護士を擁する必要があるのではないか。今後の検討課題とする。
- ⑤アーキテクト2・3月号 法人協力会員広告協賛について（久保田）
 - ・2月号：静岡 10万 3月号：三重、岐阜 各5万
 - ・1万円以上の協賛は企業では本社稟議が必要なため出しにくい世情。2.5万円/社を1万円×3社のように融通を効かせてほしい。（加藤）



大きく白字で「藤岡農協倉庫」と描かれた外壁



どっしりとして、存在感がある正面



キングポストトラスの小屋組み



■発掘者のコメント

豊田市の西部、旧藤岡町役場の近く、建物の外壁に「藤岡農協倉庫」と白字で描かれた大きな文字が目に入ってくる。一見土蔵に見えるが、土蔵としては大きい。反対側に回ると農協の建物のひとつであることが判る。どっしりとした、存在感のある建物である。お話によると、この農業倉庫は米の貯蔵庫として昭和初期に建てられている。当時の政府指定倉庫として、村内で生産される米麦の集荷保管に使われた。最大収容能力は玄米換算(60キログラム)で6,600俵。常温式倉庫のため、戸前が狭く、米麦の搬出入はすべて人力、男子職員総出で行ったという。

構造形式は木造平屋建て、桁行10間、梁間5間、土蔵造り、切妻屋根葺きである。外壁は下屋ともに押縁下見板張りである。建物内部は5間四方の倉庫を2室並べ、正面に奥行き2間の下屋を付す。入り口は各倉庫の正面中央に設ける。内壁は漆喰の上塗り、多数の角材を建てて保管荷物が直接壁に触れないようにしている。貯蔵庫各室背面に2カ所ずつ、妻壁にもそれぞれ霧除庇付き高窓を設ける。床面近くに鉄製の床上換気口が2間間隔で設けるなど、建物の性格上、換気に配慮している。

小屋組みは、キングポストのトラスを桁行1間ごとに入れ、両妻と仕切りの壁は和小屋と、和洋の併用である。トラスごとに挟み方杖を入

れ梁間方向の補強、一方陸梁中央の真東下端に挟み二重梁を入れ、真東を筋交でつなぎ桁行きの振れ止めの補強、四隅に火打ち梁を入れ、トラスの一つ置きにも火打ち梁を入れるなど水平面を固めている。一方、下屋の庇は束立ちで、梁の架構は京呂組とするなど伝統的な和小屋形式である。

所在地：豊田市藤岡飯野町下貝戸
建設年：昭和初期
構造・規模：桁行十間梁間五間 土蔵造り
2間の下屋付き



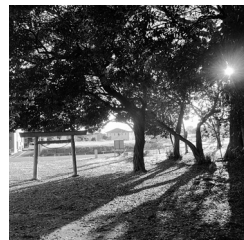
三輪邦夫 | RE建築設計事務所



随應院 鐘楼門



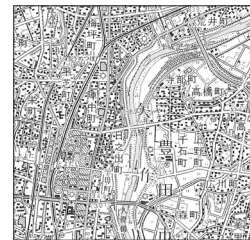
八幡神社 社殿群



守綱神社



常夜燈・道標



■発掘者コメント

“寺部”は“拳母(衣)”に対峙して矢作川左岸にあり、かつては尾張藩に属する石高一万四千石を領有する寺部領であった。集落の北西隅に領主の陣屋跡が残存する。陣屋跡の南には、慶長15(1610)年に入封した初代領主である「渡邊半蔵守綱」を祭神とし、明治期に家臣により創設されたという「守綱神社」が鎮座している。

ちなみに裏千家中興の祖と称される玄々齋は奥殿藩第七代藩主松平乗友の子で、寺部十代領主規綱の実弟である。

街区の東西端にはそれぞれ領主渡邊家、奥方の菩提寺である「守綱寺」「随應院」があり、2

カ寺の墓所は市指定史跡となっている。さらに「守綱寺」の南には「八幡神社」を配する。集落中央部では常夜燈を設け、ここを起点とする古道(善光寺道)の道標も並立している。

集落内の建物は遊佐家・松本家の長屋門(市指定)を除きほとんどが建て替えられているが、程よく要所に点在する寺社類の歴史建造物や常夜燈、道標などの歴史環境が住環境の奥行きを感じさせる。加えて寺社叢の緑影がその場の気を和ませている。

なお、寺部における建造物の文化財指定は、前述の長屋門2棟の他では「守綱寺」の「本堂・鐘楼堂・太鼓堂・山門」に止まっており、「随應院」や「八幡神社」における諸建造物や史跡の

追加指定が望まれる。

ところで、現状では集落と矢作川との狭間に建売住宅が入り込み、また、南側の国道を越すと宅地造成工事が進行中である。さらにその南方には「豊田スタジアム」「豊田大橋」が遠望される。歴史街区との対比が今後どのように展開していくか注目される。

所在地：愛知県豊田市寺部地区
アクセス：名鉄三河線・豊田線
「豊田市」下車、徒歩30分



林 廣伸 | 林廣伸建築事務所



ローカル線の車両工場

最近、家族で県外へ車で旅行に行くことが多い。目的の観光地までの道すがらは、コンビニ、ファーストフード、チェーン外食店、どこも似たような風景にげんなりする。そんな中、地元住民の足として行き交うローカルな電車・バスを見かけると、その土地に触れたような気がして嬉しくなる。

私にとってのローカルは静岡鉄道長沼駅の風景だ。駅に隣接する木造の車両工場が昔ながらの風景をとどめている。今は修理点検のみの工場だが、その昔は自社製車両をここで製造していたらしい。そういう歴史に思いを馳せる。

あなたが普段何気なく通り過ぎる風景のなかで、地元を地元たらしめているものは何ですか？



「地元」を感じさせるローカル線の風景

知る人ぞ知るB級グルメ

昨今、B級グルメと称した食べ物が全国各地で乱立気味であるが、多分にメディア戦略・地域振興のにおいを感じるものが多い。今回その種とは一線を画した一品を紹介しよう。おでんの「ふわ」である。今や全国区となった「静岡おでん」に詳しい人でも??? となるかもしれない。それもそのはず、私の知る限り「ふわ」は地元静岡競輪場の売店でしかお目にかかれない代物である。見た目はレバーのようであるが、「ふわ」は牛の肺である。静岡おでん特有の黒い出汁で煮込まれ、食感が高野豆腐のような歯ごたえであっさりして美味、何本でもいける。青海苔とダシ粉をかけて食べれば最高である。1本100円。競輪専門誌を片手に食らいつくのが正しいお作法。競輪場はB級グルメの宝庫です。是非皆さまも地元で独自の味をお探しください。



静岡競輪場でしか食べられない!? 美味おでん・牛の肺臓「ふわ」

地域会だより

<東海支部>

- 11/27 みんなの森 ぎふメディアコスモス見学会・講演会・懇親会
- 1/29 支部役員会
- 2/26 支部役員会
- 3/25 支部役員会

<静岡>

- 12/10 12月静岡地域会定例役員会(拡大)の開催、忘年会
- 1/14 1月静岡地域会定例役員会の開催
- 1/22 平成28年建築関係団体新年会を共同開催
- 2/10 2月静岡地域会定例役員会の開催
- 3/3 3月静岡地域会定例役員会の開催
- 4/25 2016年度定期総会の開催

<愛知>

- 11/18 社会貢献CPD紙コップタワーを作ろう
- 11/28 事業委員会 猪高小学校建築教室
- 12/2 賛助会企画CPD研修 見学会(LIXIL)
- 1/15 賛助会商品PR会+新年会
- 2/4、10 実務セミナー古澤弁護士を招いて
- 2/5 役員会
- 3/4 役員会

<岐阜>

- 2/5 第6回 役員会 場所:コア2階
- 2/5 「JIAの窓」 場所:岐阜市美殿町37 コア2階
○第1部「まちづくり」講師:栗本真志氏・車戸慎夫氏
○第2部「CPDについて」講師:藤井孝一氏
- 4/27 岐阜地域会 通常総会・懇親会
場所:ホテルグランヴェール岐山

<三重>

- 11/6 第5回例会、会員研修会4「JIA会員による発表」(森本雅史、米田雅樹)
- 12/11 第6回役員会、第6回例会(持出しTOTO名古屋S/R)、会員研修会5「建材研修会」、忘年会
- 1/15 第7回例会、会員研修会6(三重県総合文化センター)
- 1/23 建築ラリー 2016(※詳細はP22Bulletin Boardに掲載)
- 2/7 建築ウォッチング「建築家と松阪を歩こう」(1/23)、
建築ウォッチング「建築家と四日市を歩こう」(1/30)、
建築文化講演会、建築シンポジウム(2/6)、
建築ウォッチング「建築家と伊勢を歩こう」(2/7)
- 3/11 第7回役員会、第8回例会

弔りこころ、大切な葬儀

葬儀のこと、お応えします。

一柳の葬儀は、各種・価格を段階的に用意いたし、ご希望される予算に合わせてお見積りいたします。宗教・宗派、葬儀規模の大小にかかわらず、全ての葬儀に丁寧にお応えしています。

いちやなぎ斎場は、365日・24時間、いつでも病院・施設等から直接入れます。

いちやなぎ中央斎場

名古屋市千種区千種二丁目19番1号
TEL (052)745-1212

いちやなぎ野並斎場

名古屋市天白区野並三丁目538番1号
TEL (052)899-0111

◆葬儀のお申し込み◆お問い合わせ◆事前相談は

TEL.052-251-9296

365日・24時間 一柳のスタッフが対応いたします!

創業138年の伝統と実績



株式
会社

一柳葬具總本店

<http://www.ichyanagi-sogou.co.jp>

イチヤナギ倶楽部

- 入会金1万円のみで掛金不要、基本価格の2割引と交通事故傷害保険の特典取得
- 相続、遺言、後見制度など相談先の紹介が受けられます



編集後記

●昨年10月から始まった16ページ建てが今月号で4回目になります。定番外の新しい記事や中断しているものなどを組み入れる空きページを確保するため、ページ構成とその内容の模索が続いています。現在のブリテン・会報委員会は新しい方の加入がなくメンバーが固定化しています。新しい息吹を吹き込んでいただくために、新年度から特に若い委員が加わりスタートできることを心から願っています。本誌に連載されている「保存情報」のI・IIの続編「III」が昨年暮に出版されました。Architectでの掲載の積み重ねが、この本の誕生につながっています。地域会の研究会が連続して発行している唯一の出版物でもあります。今回はグラビアページを充実させ良い仕上がりになったと思います。是非ご購入いただきますと共に、多くの皆さまに読んでいただけるようご紹介ください。ちなみにその

中で物件の「いま」を描いた私の水彩画が4点掲載されています。(福田一豊)

●今月の「保存情報」に鐘樓門の事が紹介されておりました。少し気になってパソコンで調べてみたらその参道には綺麗な蓮の花が咲くようです。お寺に咲く蓮の花は日本人には落ち着く風景です。ふと、昨年の夏に訪れた奈良の国宝唐招提寺の事を思い出しました。唐招提寺は南都六宗の一つである律宗の総本山です。鑑真が建立した寺院で1998年に古都奈良の文化財として世界遺産に登録されています。唐招提寺金堂の空に反り立った屋根は力強さが感じられ実に良いバランスです。建物はさておき、唐招提寺堀の蓮池はたいへん綺麗で見ごたえのあるものでした。大きな葉に蓮の花が咲き、何とも美しく、心が落ち着いた事を思い出しました。お釈迦様の台座がなぜ、蓮の花なのか、ご存知でしょうか。一説によると蓮は泥水が濃いと大輪の綺麗な花を咲かせるようです。人生に置き換えると泥水はつらく苦しいこと。その泥水の中で

こそ大輪の花が咲く。蓮の花とは人生を生きていく中で花を咲かせること。その花の中身、すなわち泥水が大切なのです。そういうお釈迦さまの教えのようです。いつかまた、唐招提寺を訪れたいと思います。皆さんも、是非、鑑賞されてはいかがでしょうか。(鈴木道夫)

ARCHITECT

第329号

発行日 2016.2.1 (毎月1回発行)

定価 380円(税込み)

発行責任者 石田 壽

編集責任者 牧ヒデアキ

編集 東海支部会報委員会
愛知地域会ブリテン委員会
建築ジャーナル内
ARCHITECT 編集部

名古屋市東区泉 1-1-31 吉泉ビル 703

TEL (052)971-7479 FAX 951-3130

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052)263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

<http://www.jia-tokai.org/>